

研究・調査報告書

報告書番号	担当
396	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
A prospective study of risk drinking: at risk for what? 危険飲酒に関する前向き研究：何についてのリスクか？	
執筆者	
Dawson DA, Li TK, Grant BF.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Depend. 2008 May 1;95(1-2):62-72.	
キーワード	
飲酒リスク、前向き研究のリスク	
要 旨	
<p>目的： 米国人集団の代表である2回の標本データを用い、初回の面接に先立つ1年間の危険飲酒の頻度と、それから約3年後の2回目の面接でわかった様々な副次的な結果の発生をリンクして使用した</p> <p>方法： 対象者は2回目の面接ができた初回面接における飲酒者22,122人である。危険飲酒の定義は、男性では1日に5杯以上飲む者、女性では1日に4杯以上飲む者とした。社会人口統計学的因子、健康状態、危険飲酒をする日に消費される飲酒量、飲まない日に消費される平均量などである。</p> <p>結果： 非階層的(nonhierarchical)なアルコール中毒・依存のオッズ、喫煙開始およびニコチン依存の頻度は、危険飲酒の頻度を増加させ、頻度が増加するに従い連続的な増加を示し、毎日もしくはそれに近く危険飲酒をする人ではオッズ比は3.03から7.23に達した。肝疾患の発生は週一もしくはそれより頻回の危険飲酒をする人で強い増加を示した (OR=2.78.4.76)。社会的損害や薬物使用は危険飲酒の頻度を増加させた (OR=1.61.2.54)。運転免許取消しの傾向は危険飲酒の頻度を有意でないものの増加させる傾向にあった。アルコール中毒や違法薬物の使用の予測においては、危険飲酒の頻度は危険飲酒でない日の飲酒量と交互作用があり、アルコール依存の予測には飲酒期間と相互作用があった。</p> <p>結論： 危険飲酒は、喫煙開始とニコチン依存を関係することによって、直接的にも間接的にも、多くのタイプの害を引き起こす恐れがある。これらの結果は防止プログラムにとって具体的に価値があり、それらは頻繁な危険飲酒がアルコール中毒の強いマーカーであることを示している。</p>	